平底の須恵器模倣坏の検討

あんどう みほ安藤 美保

I はじめに

- Ⅳ 平底模倣坏の分布と様相
- Ⅱ 惣宮遺跡出土の平底模倣坏の特徴
- V まとめと今後の問題点
- Ⅲ 研究史-須恵器模倣坏を中心に-

下都賀郡石橋町に所在する惣宮遺跡では、いわゆる須恵器模倣と呼ばれる形態をしていながら平底になっているという、非常に特殊な形態の坏が出土した。この坏群の検討の結果、須恵器模倣の出現期に見られる特徴的な形態で、平底になっている原因には系譜的な可能性があるとした。しかし、この形態が本地域のみの限られた特色なのか、他の須恵器の模倣が見られる地域でも同様な様相が見られるのかが疑問となることから、周辺地域の類例を探した。その結果、県内では特に上三川・壬生町周辺に集中が見られ、県外でも東北地方南部から関東地方北部の広範囲で見られることが分かった。また時期的には、地域で若干の違いはあるが、須恵器模倣の出現期から導入期に中心に見られる事が分かった。これらの類例の検討の結果、平底模倣坏は地域的で須恵器模倣が安定・定型化する以前の漸移的な器形と規定できた。

I はじめに

北関東自動車道建設に伴い、平成9年度に調査が行われた壬生町に所在する惣宮遺跡の土師器坏群の中には、いわゆる須恵器模倣と呼ばれる形態をしていながら、平底になっているという、非常に特殊な形態の坏が出土している。従来本地域で平底というと、律令期の定型化した坏や、古墳時代中期の境類がまず思い浮かぶが、本遺跡で出土したものはそのどちらでもなく、古墳時代後期の土器の特徴であるいわゆる須恵器模倣坏であった。須恵器の影響による丸底化が指摘されている本地域において、これらの平底の坏群が、惣宮遺跡の個性を現すものと考え、若干の検討を報文内で行った。

その結果、須恵器模倣の出現期に見られる特徴的な形態であるという事が分かったが、検討 は一集落のみの小範囲に留まった。そのため、今回は対象地域を更に広めて検討し、平底模倣 坏の性格と位置を明らかにしたい。

Ⅱ 惣宮遺跡出土の平底模倣坏群の特徴について

惣宮遺跡の報告において、すでに平底の模倣坏群について若干の検討を行っているが、再度 検討結果を簡単にまとめる(安藤2001)。

惣宮遺跡は下都賀郡石橋町大字下長田地内に所在する古墳時代中期から歴史時代にかけての 集落である。古墳時代中期末~後期初頭が集落の中心で、竪穴住居24軒がこの時期に該当する。 平底模倣坏は、全形が分かるもので29点出土し、出土遺構は11軒にのぼる。特に第5号住から は、出土した坏の21点中13点までが平底模倣坏になる。

形態分類の結果、平底模倣坏は須恵器坏蓋を模倣している形態にのみ見られ、須恵器の形態変化に忠実な坏身模倣形態にはないことが分かった。時期的には、特に須恵器模倣の導入期である田熊・梁木編年のⅠ期(梁木・田熊1989)、藤田編年のⅣ期(藤田1999)にみられ、須恵器坏身と蓋の模倣形態がセットになる須恵器模倣の安定期である田熊・梁木編年のⅢ期、津野編年のⅡ・Ⅲ期(津野1995)には見られなくなる事が分かった。

また、平底模倣坏の細部の検討結果、平底は工程の省略や用途の差により生じたものではなく、須恵器模倣の出現期である和泉期後半からの系譜的な理由があるとの結論に至った。

Ⅲ 研究史ー須恵器模倣坏を中心にー

惣宮遺跡で検討を行った結果、須恵器を模倣しているのにも係わらず、底部を平底につくっているという特徴が浮き彫りになった。そして更に、平底の模倣坏は須恵器模倣坏の出現期に見られる器形であることが分かったため、ここでは須恵器模倣という現象に主眼をおいて研究史を整理してみたい。

杉原荘介氏によって設定された鬼高式土器について、1955年中山淳子氏らはその形象上の特徴の一つとして「須恵器の器制を模し口縁部が立ち上がり、口縁部と底部との境に段のある坏形土器が出現する」とあげた(杉原・中山1955)。1964年には岩崎卓也氏が、南関東・北関東・長野県等の各地の古墳時代後期の土器群の現実のあり方について検討を加え、須恵器各型式を模した坏形土師器があることを指摘している(岩崎1964)。1968年には岡田淳子・服部敬史氏が、八王子中田遺跡の資料をもとに鬼高式を三分類した(岡田他1968)。これらが須恵器模倣について言及している初期の研究であり、いずれも模倣坏の出現をもって関東地方における鬼高式の概念を規定している。

1970年代以降、古墳時代後期に位置づけられていた鬼高式土器は、時期を便宜的に6~7世紀に対応する物と考えられ、須恵器の模倣行為が見られる段階を指標にする。西弘海氏は、鬼高式土器の特徴の一つである須恵器を模倣するという、畿内には見られない独自の行為を、「須恵器指向型」と呼んだ。そして、須恵器模倣の背景には須恵器の導入の遅れと絶対量の不

足があるとした(西1982)。

その後、資料の増加に伴い、各地で鬼高式の細分化と型式の実年代の比定が進められる。土師器と須恵器の型式変遷が対応する場合が多いことから、近畿地方で比定された須恵器の暦年代を伴出する土師器に対応させていく方法が主流であった。それにより、模倣坏の形態変化についても須恵器の変遷に対応した考え方が基本となっていた。こうして、増加した資料に裏付けされた各地域での編年作業が進むにつれ、須恵器模倣についても様々な論考が示された。

中村倉司氏は、出現期の模倣坏について特筆している(中村1979)。当時の、定型化した口縁部が直立する形態の模倣坏の出現を以て和泉式と鬼高式の境界にするという考え方に対し、それ以前に見られる須恵器模倣を起源と考えられる坏群と、和泉式の伝統的な境からは系譜をたどれない坏群を示し、鬼高期の上限を繰り上げようとした(大屋・中村1992)。また、坂口一氏は、出現期の須恵器と土師器の平行性を論じながら、最古段階の須恵器の段階から土師器は須恵器の影響を受けていたことを示唆した(坂口1988・1991)。さらにそれまでの和泉式と鬼高式の境界を模倣坏の出現を以て分ける考え方に対し、模倣坏のみを以て型式の概念を規定することは型式学的方法に矛盾が生じていると指摘している(坂口1987・1988)。そして長谷川厚氏は、関東各地の該期の様相を分析し、土器組成中での須恵器模倣の安定後には各地域独自の模倣坏が出現し、展開することを示している(長谷川1995)。

以上のような研究の結果、模倣坏の初源について5世紀後半まで遡ることが明らかになった。 そして須恵器模倣安定後は各地域独自の土師器坏が出現し、律令体制成立に伴い須恵器生産の 地方における操業の拡大により様式が転換していくという動きが理解されるようになった。そ のため、鬼高式土器の指標としての模倣坏の出現そのものよりは、食器組成の変化としての模 倣という行為に意味が見出されるようになる。

一方、坂野和信氏は模倣行為の結果による遺物を、和泉式の型式組成を布留式土器、韓式土器、須恵器の影響下に求める具体的な見解を提示し、模倣行為の結果を系統化していく論考を示した(坂野1991a・b)。坂野氏のこの新しい視点は、須恵器模倣の初源と導入されていく経緯を明らかにするものといえる。また、1999年に東国土器研究会が、古墳時代中期の土器様相について各地域の検討を行い、出現期の須恵器模倣についても明らかにしようと試みた。

しかし、従来から指摘されているように、須恵器模倣坏とは言いながらも出現期の模倣坏の原型を、模倣したはずの須恵器に求めることができる例は少ないという問題(田辺1981、坂口1987)もある。こうしたことから、今後は須恵器模倣の導入期の資料は依然少ないが、在地産の須恵器についても考え合わせ、背景にある地域社会や系統と型式の中で須恵器模倣の把握を試みる段階にあるといえる。

Ⅳ 平底模倣坏の分布と様相

惣宮遺跡の出土坏群の検討の結果、平底の模倣坏は、須恵器模倣坏の出現期に見られる器形であるとの結論を得た事はすでに述べた。模倣坏の出現期にみられる様相なのだとすれば、他の須恵器の模倣が見られる地域でも同様な様相が見られるのか、惣宮遺跡の所在する本地域のみの限られた特色なのかが疑問となる。そのため、ここでは周辺地域の類例を探し、平底模倣坏の分布とその性格について見てみたい。

なお類例を探すにあたって、須恵器模倣形態杯の決定の根拠としては、須恵器に原型が求められるものに限定せず、体部と口縁部の境に稜線や沈線、変化点などを持ち、体部と口縁部が区別されているものを須恵器模倣形態と判断した。

(1) 県内の様相

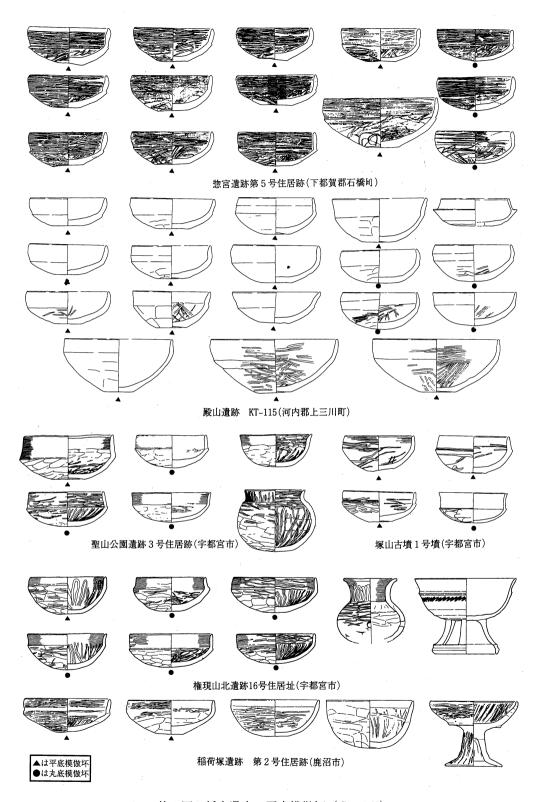
本県内の模倣坏の様相は、5世紀の第3四半期(TK-208期並行)に模倣坏の系統である坏群が出現する。そして、第4四半期(TK-23期並行)になると模倣坏の出土量が増加し、6世紀初頭には模倣坏が坏群の主体を占める(TK-23~47期並行)。この時期までは須恵器坏蓋を模倣したものが大半で、明確に須恵器坏身を模倣しているものは見られない。そして6世紀前半には須恵器坏身模倣が始まり、須恵器坏の変化に沿った形で変化していくことが分かっている。

県内の平底模倣坏の類例を探した結果、第1表に示すように22遺跡121個体を見つけられた。この数は、今回類例を探した地域で最も多い数になる。そして、遺跡の分布を見ても、鬼怒川西岸から姿川西岸にかけての地区に集中が見られる。特に前に触れた惣宮遺跡が所在する上三川地区から壬生地区にかけての集中が顕著である。

次にこれらの平底模倣坏群の形態についてみてみる。新郭遺跡、八幡根遺跡、成願寺遺跡での3点を除き、大半が口縁と体部境に稜を持ち、口縁が直立する須恵器蓋模倣の形態であった。そして新郭遺跡、八幡根遺跡の坏身模倣の坏は、最終整形段階の省略によって平底となっているという調査担当者の観察所見から、須恵器蓋の模倣坏で平底になっているものとは若干性格を異にすると考えられる。こうしたことから、本県内で見られる平底の模倣坏は、須恵器坏蓋の模倣形態にのみ見られるという点に注目したい。また、その細部についてみてみると、稜線が曖昧で器厚なものが大半を占め、モデルとなった須恵器を限定できるような坏は無かった。

次に、平底の模倣坏が出土した遺構内の出土様相について考えてみると、以下の三様相が見られる。

- ①須恵器模倣形態が坏群の主体を占める。その中でも平底の須恵器坏蓋模倣坏が主体的で、埦形坏・丸底模倣坏が客体的な遺構。(惣宮遺跡第5・11・38・39号住居跡、殿山遺跡KT-6・10・19・20・29・115・120)
- ②埦形の坏群が主体を占め、須恵器模倣坏は客体的な遺構。(惣宮第8号住居跡、砂部遺跡SI-



第1図 栃木県内の平底模倣坏(S=1/6)

77·230·259·404·422、稲荷塚遺跡第2号住、清六Ⅲ遺跡SI-225、上敷遺跡5号住、杉村遺跡第8号住、成願寺遺跡)

③須恵器模倣形態が坏群の主体を占める。その中でも丸底の模倣坏が主体的、平底模倣坏・埦形は客体的な遺構。(惣宮遺跡第7・10・19号住居跡、新郭遺跡SI-30、薄市遺跡3 Y-21、聖山公園3号住、殿山KT-51、免の内台遺跡SI-157、前田遺跡SI-33・86、権現山北遺跡16号住、上敷遺跡4号住、東林北遺跡KT-1)

以上の三様相が見られるが、須恵器坏身の模倣坏が主体的になる遺構では平底の模倣坏が見られない点に注目したい。出土数についてみると、①56点、②14点、③14点となる。以上の様相から、従来の研究をふまえて新旧を考えるのならば、古い方から②→①→③となる。なお共伴する須恵器から、これらの具体的な時期を考えると、①は殿山遺跡KT-115で出土した須恵器坏からTK-208段階並行期と考えられ、5世紀の第4四半期が比定できる。③は惣宮遺跡第7号住居跡の須恵器高坏脚部がTK-47段階並行期であることから5世紀末から6世紀前半と考えられる。また、②は須恵器の共伴がないため根拠に乏しいが、いわゆる内斜口縁の境が見られる点、大型の甑が出現している点などから、5世紀の第3四半期を考えたい。

以上の検討結果は、平底の模倣坏は須恵器模倣坏の出現期から導入期に見られ、安定期には徐々に少なくなり、須恵器坏身模倣の出現する時期にはほぼ姿を消すという流れを現す。この結果は惣宮遺跡での検討結果とほぼ同様であり、平底の模倣坏は、惣宮遺跡のみに見られる独自の形態ではなく、地域の広がりを持ち、須恵器模倣坏の出現期から導入期に見られる特徴的な形態であることが分かった。

(2) 東北地方南部の様相

次に、本県の外縁に位置する東北地方南部の宮城県と福島県について検討してみる。東北地方南部の古墳時代土器研究は、氏家和典氏が提唱した「塩釜式→南小泉式→引田式→住社式→栗囲式」という変遷段階が基礎となっている(氏家1957)。その後、これを基礎に土師器編年研究は、細別や検証を行う形で進められる。東北地方南部での須恵器模倣坏は、TK-208~23段階並行期に出現する。この出現期の模倣坏は、体部と口縁部の境に稜線や段を持ち、口縁部が直立する蓋模倣の形態である。各地域で細かな様相の違いはあるが、大きくは須恵器模倣形態の坏は出現後、関東地方のように坏・埦類の主体を占めることはない。そしてMT-15段階並行期には、模倣坏の一形態である体部と口縁部に境界を持ち、口縁部が外反する形態の坏群が出現し、この形態の坏群は以後の土器群の中で大きな位置を占めるようになるという流れがある。

福島県内の平底模倣坏は、5遺跡8遺構で12点が見つかった。分布は阿武隈川流域の県中央部、郡山市付近にやや集中が見られる。口縁部が直立する蓋模倣形で、東北地方南部で特徴的

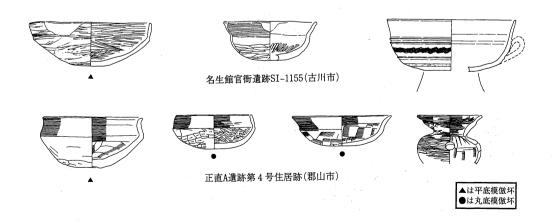
な口縁部が外反する坏に平底模倣坏が見られなかった点に注目したい。また、稜線が鋭角でな く、やや器厚な須恵器に忠実でない模倣形態が見られた。

出土遺構内の坏埦類の様相について見てみると、平底模倣坏はいずれも客体的で、主体となる遺構はなかった。埦形が主体的となる遺構からの出土が最も多く(正直A遺跡40・46・71号住、永作遺跡40号住、薬師堂遺跡1号住、清水内遺跡4区3号住)、須恵器模倣坏が主体的な遺構は1軒(正直A遺跡4号住)のみである。正直A遺跡4号住は当地域の特徴的な器形である口縁部が外反する坏群が共伴している。なお、今回福島県の類例を探した結果、丸底の模倣坏でも底部に木葉痕やヘラ記号を持つ例が多く見られた。これらの例は、底部を平底にはしないものの、体部と境を持つ底部としては意識していたと考えられ興味深い。

宮城県内の平底模倣坏は6遺跡10遺構で24個体が見つかった。分布は名取川流域の県中央部、仙台市周辺にやや集中が見られた。平底模倣坏群の形態は、福島県と同様に口縁部が直立する蓋模倣形態が殆どで、比較的体部と口縁部境の稜線が鋭角のものが多かった。そして、東北地方南部で特徴的な口縁部が外反する坏に、平底は見られなかった。

また、出土遺構内の坏埦類の様相について見てみると、全て埦形が主体的となる遺構からの出土であった事から、福島県に比べ須恵器模倣坏出現期の短期間に見られるといえる。

以上の検討結果をまとめる。宮城県、福島県の東北地方南部において平底模倣坏は、坏埦類の主体的な形態とはならないものの、類例は見られることが分かった。時期的には、須恵器模倣坏の出現期(TK-208~23段階並行期)に見られ、東北地方南部の特徴的な坏である口縁部が外反する模倣坏が出現する段階にはほとんど見られなくなる事が分かった。

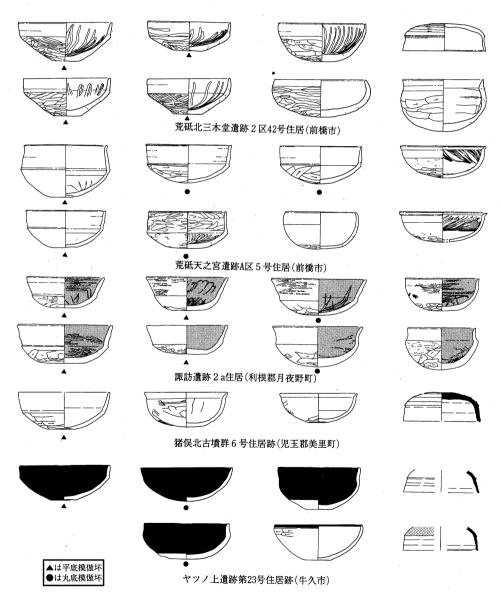


第2図 東北地方南部の平底模倣坏(S=1/6)

(3) 関東地方の様相

次に、本県周辺に位置する群馬・茨城・埼玉の3県について見ていきたい。埼玉県、群馬県を含む関東西部は、須恵器坏蓋模倣形態が主体となる地域で、栃木、茨城を含んだ関東地方東部は、須恵器坏身模倣が主体となる地域である事は従来から言われている(長谷川1995)。

関東地方西部地域において須恵器模倣はTK-208段階並行期に始まり、TK-47段階並行期には 模倣坏が坏類の主体を占めるようになる。このTK-23~47段階の模倣坏は、比較的須恵器坏蓋



第3図 関東地方の平底模倣坏(S=1/6)

を忠実に模倣した形態である(坂口1991)。なお、坏身を模倣した形態は僅かに見られるのみである。その後、比企型坏、有段口縁坏と呼称されるような地域的特色が強い須恵器坏蓋の模倣坏が出現し、地域的に独自の変化を辿っていく。

一方、関東東部の茨城県では、TK-208~23段階並行期に坏類の量が増加し、器種組成の中心となる。この時期に県南部では須恵器模倣の形態が出現し、この模倣坏は須恵器坏蓋模倣で平底のものが主体である(樫村他1999)。その後、TK-23~47段階並行期には模倣坏が坏類の主体を占めるようになる。この段階で須恵器坏身模倣坏が見られるようになり、TK-10~43段階並行期には須恵器坏身模倣が主体的となる流れがある(樫村1993)。

まず関東西部について見てみる。群馬県では11遺跡26遺構50点、埼玉県では7遺跡12遺構14点で平底模倣坏を確認した。遺跡の分布は、群馬県南部の前橋市荒砥地区周辺に集中が見られた。また、埼玉県北部の児玉地方にもやや集中が見られ、この両地域は、利根川流域にあり、隣接している点に注目したい。

平底模倣坏は、この地域でも須恵器蓋の模倣坏のみに見られた。群馬県で確認した平底模倣坏で特徴的な形態として、口縁部が外傾し、内面が黒色処理される坏群がある。この形態の坏は、東北南部の坏群との形態的な類似が指摘され、群馬県の山間部を中心とする地域で主体的に使用される(岩崎1984)。諏訪遺跡と後田遺跡でこの形態で平底のものが確認されており、地域的特色が強い模倣坏群に、平底が見られた点に注目したい。なお底部について見てみると、木葉痕を持つものが多く、底部周縁部をヘラケズリして平底に残している。

地域色が強い坏群に平底が見られる一方、器薄で、稜線や口縁端部など須恵器蓋を忠実に模倣した坏にも平底が見られた。前二子古墳や荒砥天之宮遺跡D区73号住やA区5号住の坏群がそれである。

埼玉県で確認した平底模倣坏は、比較的器薄で須恵器蓋を忠実に模倣した平底の坏であった。 特徴的であったのは、中村氏が提言する口縁部が比較的短い「模倣坏A」にのみ見られる点で ある。中村氏による深谷市域の古墳時代前期後半~後期初頭の土師器の分析では、模倣坏Aは 模倣坏出現期の形態で、その後、模倣坏Aと比較して口径・器高が高く口縁部が長い「模倣坏 B」が出現し、主体的になっていくという(中村1979・1999)。

平底模倣坏が出土した遺構の坏埦類の様相を見てみる。群馬県では埦形の坏が主体的となる 遺構では5遺構12点、模倣坏が主体的となる遺構のうち平底模倣坏が主体なのは9遺構20点、 丸底模倣坏が主体となるのは7遺構10点である。埼玉県では埦形の坏が主体的となる遺構は5 遺構5点、模倣坏が主体的となる遺構のうち、丸底模倣坏が主体となるのは7遺構10点である。 なお、平底模倣坏が主体となる遺構は無かった。

以上の検討結果、地域によって平底模倣坏の形態や出土時期が異なる事が分かった。前橋市

の荒砥地区では須恵器に比較的忠実な模倣を行っているのに対し、山間部では地域性が強いとされる坏群に見られた。時期的には、埼玉県児玉地方では模倣坏出現期(TK-208段階並行期)に、群馬県南部では模倣坏導入期から安定期(TK-23~47段階並行期)に、群馬県山間部では地方色が強まる時期に見られた。

次に関東東部の茨城県について見てみる。平底模倣坏は、7遺跡16遺構で、23点を確認した。 分布は県南部に集中する傾向がある。これらは、蓋模倣形態が大半を占めるが、坏身模倣が前田村遺跡第505号から2点確認されている。また、茨城県の平底模倣坏の特徴として、内外面を赤彩している例が大半を占める点があげられる。このように坏の内外面に赤彩を施す例は、茨城県南部において、TK-208~23段階並行期に最も多く見られ、徐々に少なくなっていくという事が分かっている(樫村1999)。また先に触れた前田村遺跡第505号の須恵器坏身模倣形態のものは、内外面が黒色処理が施されていた。

類例が見られた遺構の坏群の様相は、 城形が主体となる遺構が 8 遺構10点で、 須恵器模倣坏が主体となる遺構のうち平底模倣坏が主体的になる遺構が 3 遺構 9 点であった。

以上の茨城県の検討結果、赤彩が施される坏が主体的である点、埦形が主体的な遺構で多く 見られる点から、時期的には平底模倣坏は須恵器模倣坏の出現期(TK-208~23段階並行期)に 最も多く見られることが分かった。

V まとめと今後の問題点

惣宮遺跡で一定量出土し遺跡を特徴付けた平底模倣坏は、以上の類例調査から、一集落のみの特殊な形態ではなく、他地域でも見られる形態であることが分かった。特に惣宮遺跡が所在する鬼怒川と姿川に挟まれた地域の分布が顕著であった。更に類例を探した結果、東北地方南部から関東地方北部の広範囲で見られたが、県内で見られるような平底模倣坏が主体となる遺構は少なかった。分布状況については、須恵器模倣が行われる地域全域で遍在的に見られるのではなく、栃木県上三川・壬生周辺地区、埼玉県児玉地区や群馬県前橋市荒砥周辺地区のように小地域に集中する。また時期的な問題については、地域で若干の違いはあるが大きくは須恵器模倣坏の出現期から導入期に中心に見られる事が分かった。

以上の分布と時期的な検討結果からは、一見平底模倣坏は各地で一律に出現したように見える。しかし類例個々を見た時、須恵器坏蓋の模倣形態という性格では共通するが、口縁部や稜線の形状、整形技法などの属性はかなり異なる。これは、出現期の須恵器模倣が一律的に行われたのではなく、各地で従来からの地域性や社会的背景をもって須恵器模倣を導入していくのを現している。そのような背景を考えたとき、平底模倣坏は、須恵器模倣が各地域で導入される段階で前時期につくられていた埦類の技法的な流れを受け継いで、須恵器を模倣していなが

ら平底を持つと考えられるのである。この現象を換言するならば、平底模倣坏は地域的で、須 恵器模倣が安定・定型化する以前の漸移的な器形と規定できる。そして、その後の須恵器模倣 の安定期になっても地域的には僅かに残るが、徐々に姿を消していくと考えられる。

以上のように平底模倣坏が、須恵器模倣導入段階の漸移的な性格を持つことが分かった一方、 今回のような平底模倣坏に限定した方法では、須恵器模倣が導入されていく中での平底坏模倣 坏の位置は不明である。今後は坏埦類のみでなく、甑や坩のような他器種の須恵器模倣につい ても分析する必要があるだろう。

また今回は、須恵器模倣坏でありながら平底となっている理由については和泉期の椀類からの系譜的な理由と前提した上で述べてきた。しかし、同じく系譜的な理由を考えるのならば、模倣のモデルとなった須恵器に求められることも考えられるが、今回は言及できなかった。今後は、陶邑産のものに限定することなく地方窯の須恵器についてもあわせて考え、須恵器模倣という現象について系譜的に考えていきたい。

参考文献

青山博樹 1999「古墳時代中~後期の土器編年」『福島考古』第40号 福島県考古学会

岩崎卓也 1964「東日本における土師器の研究」『史学研究』東京教育大学文学部研究紀要46

氏家和典 1983「東北土師器の型式分類とその編年| 『歴史』第14号 東北史学会

大屋道則ほか 1992「出現期模倣坏の検討(一)」『研究紀要』第9号 ㈱埼玉県埋蔵文化財調査事業団

岡田淳子・服部敬史 1968「土師器の編年に関する試論」『八王子中田遺跡』八王子中田遺跡調査会

坂口 一 1986「榛名起源FA・FP層下の土師器と須恵器」『荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺 跡』 群馬県教育委員会・娳群馬県埋蔵文化財調査事業団

坂口 - 1987「群馬県における古墳時代中期の土器編年」『研究紀要』4 (財票県埋蔵文化財調査事業団

坂口 - 1988「東国須恵器の一様相」『考古学雑誌』第74巻第1号

佐久間正明 2000「福島県における五世紀代の土器変遷」『法政考古学』第26集

杉原荘介・中山淳子 1955「土師器」『日本考古学講座』 5

田辺昭三 1981『須恵器大成』

辻秀人 1989「東北古墳時代の画期について(その一)」『福島県立博物館紀要』第3号 福島県立博物館

津野仁 1995「栃木県における6・7世紀の土器編年と地域的特徴」『東国土器研究』第4号

中村倉司 1979『宇佐久保遺跡』 埼玉県遺跡調査会

服部敬史 1995「東国における古墳時代須恵器生産の特質」『東国土器研究』第4号 東国土器研究会

長谷川厚 1995「東国における律令体制成立以前の土師器の特徴について」『東国土器研究』第4号

坂野和信 1991a「和泉式土器の成立について」 『土曜考古』第16号 土曜考古學研究会

坂野和信 1991b「和泉式土器の成立過程とその背景」『埼玉県考古学論集』 (財埼玉県埋蔵文化財調査事業団

坂野和信 1999「東日本における古墳時代中期の土器 | (1) 『東国土器研究』第5号 東国土器研究会

坂野和信 1991「和泉式土器の成立について」『土曜考古』第16号 土曜考古学研究会

藤田典夫 1999「栃木県における5世紀の土器編年」『東国土器研究』第5号

梁木誠・田熊清彦 1989「古代下野の土器様相(I)」『栃木県考古学会誌』第11集



第4図 平底模倣坏の分布

第1表 平底模倣坏集成表

番号	(車内より	所在地	・車 1車 <i>ト</i>			土数(1	四)	埦形 (個)	備考(報告内の時期・共伴等)
	遺跡名		遺構名	<u> </u>	莫倣 👤		莫倣		
1	砂部遺跡	高根沢町	SI-77	一千広	丸 <u>底</u> 0	1 0	<u>丸底</u> 0	11	
1	沙印度奶	同似八門	SI-230	1	1	0	0	4	
			SI-259	1	0	0	0	11	
			SI-404	1	1	0	0	7	
			SI-422	2	1	0	Ö	4	
2	免の内台遺跡	高根沢町	SI-157	1	4	0	0	0	X
_	78 -117 12.2	12000	第25号住居跡	2	1	0	Ö	6	底部へラ記号有。5世紀後第
3	前田遺跡	宇都宮市	SI-33	2	4	0	0	2	8世紀前葉
			SI-34	2	1	0	0	0	7世紀後葉
			SI-86	1	5	0	0	1	底部木葉痕。7世紀後葉
			SI-120	1	2	0	0	2	7世紀末~8世紀初頭
4	聖山公園遺跡	宇都宮市	3号	1	3	0	0	2	
5	雷電山遺跡	宇都宮市	SI-08	1	0	0	0	1	
6	塚山古墳1号墳	宇都宮市		3	1				5世紀後葉・TK-23並行か?
7	権現山北遺跡	宇都宮市	16号住	1	10	0	. 0	2	TK-23~47高坏。6世紀前半
8	成願寺遺跡	宇都宮市	第18住	1	1	1	0	1	5世紀末~6世紀初
_	La L L Seb te L	de des de la	第90住	1	0	0	0	3	5世紀第4四半期
9	杉村遺跡	宇都宮市	第8号住	2	0	0	0	5	5世紀第3四半期
10	nin i c -i - tate	L - III me	第125号住	1	0	0_	0	0	
10 11	兜塚古墳 文殊山遺跡	上三川町	表採遺物 第 4 号住	6	0	0	0	0	C 117-61-50152
		石橋町		2		0	0	0	6世紀初頭
12 13	薄市遺跡 多功遺跡	上三川町 上三川町	3 Y-21 遺構外	2	-5	0	- 0	0	底部木葉痕。
10	シツ退跡	工二川町	退傳外 8 次SI-401	2	0	0	0	0	
14	殿山遺跡	上三川町	KT-1	1	0	0	0	1	
. 14		/IIMJ	KT-3	2	2	0	0	2	
			KT-6	6	4	0	1	0	
	·		KT-10	2	1	0	0	0	
			KT-19	2	2	0	0	0	
			KT-20	5	4	0	0	1	
			KT-29	7	5	0	0	1	
			KT-39	Ti-	0	0	0	0	*
	/		KT-51	1	2	0	0	1	
			KT-73	5	4	0	0	2	
			KT-115	7	6	Ö	0	0	TK-208の須恵器坏身
			KT-120	4	1	0	0	2	
15	新出遺跡	上三川町	遺構外	2		-			
16	東林北遺跡	壬生町	KT-1	1	3	0	0	0	
17	稲荷塚遺跡	鹿沼市	第2号	2	0	0	0	6	5世紀後葉
18	新郭遺跡	壬生町	SI-30	1	2	0	11	0	底部木葉痕。6世紀後葉
	41 -d- 34 w.		SI-264	1	7	1	13	0	6世紀後葉
19	惣宮遺跡	石橋町	第8号住	1	3	0	0	5	5世紀末
	·		第5号住	12	4	0	0	1	6世紀初
			第7号住	1	2	0	0	1	TK-47期
			第9号住	2	2	0	0	1	6世紀初
			第10号住	1	8	00	.3	2	6世紀中
			第11号住 第19号住	3	3	0	0	3	6 世紀初 6 世紀初
			第38号住	2	0	0	0	0 2	6世紀初
			第39号住	2	1	0	0	0	6世紀初
			第29号住	2	0 -	0	2	2	6世紀中
20	八幡根遺跡	小山市	SI-11A · B	0	3	1	8	1	0世紀中
21	清六Ⅲ遺跡	野木町	SI-225	1	1	0	0	2	
21	1月77日1819	= New	SI-265	2	3	0	5	0	底部木葉痕
22	上敷遺跡	佐野市	4号住	1	2	0	0	1	医即作来派
	11.76.76.27		5号住- D	1	3	0	1	9	
字城県		·	10011111	-				U	
23	名生館官衙遺跡	古川市	SI-1155	1	0	0	0	0	TK-208~23高坏。5世紀後第
-		1	SX-42	0	1	0	0	0	5世紀後~6世紀前
24	山王遺跡町地区	多賀城市	SI-2983	1	0	0	0	3	5世紀中
25	藤田新田遺跡	仙台市		0					ON-46~TK-208模倣腿。5 世系
		1	SI-201	2	1	0	0	3	後半
		1	SI-16	2	1	0	0	2	5世紀後半
			SI-103	1	0	0	0	0	
26	南小泉遺跡	仙台市	SR-01	3	2	0	0	30	
			SI-09	_1	0	0	0	0	
		<u> </u>	SI-14	1	1	0	0	2	
27	養種園遺跡	仙台市	I ⊠SI-02	4	0	0	0	-5	
		村田町		10	13	0	0	0	

福島	1								
29	清水内遺跡	郡山市	4区1号住	2	0	0	1 0	0	古墳時代中期
			4区3号住	1	1	0	0	0	
30	永作遺跡	郡山市	40号住	1	0	0	0	5	
31	正直A遺跡	郡山市	40号住	2	1	0	0	15	6世紀前
			4号住	1	2	0	1	1	6世紀後
			46号住	1	3	0	0	9	7 - 10174
			71号住	2	0	0	0	13	
32	薬師堂遺跡	石川町	1号住	2	4	0	0	6	6世紀中
群馬		Land	1 7 11				1		0 12/10 1
33	後田遺跡	利根郡月夜野町	SJ08	2	2	- 0	Ι 0	2	木葉痕有。内面黒色処理。
	1222	13 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15	SJ09	1	3	0	0	0	内面黒色処理。
			SJ20	2	0	0	0	1	木葉痕有。内面黒色処理。
			SJ82	1	3	0	0	0	内面黑色処理。
			SJ100	2	2	0	l ő	0	木葉痕有。内面黒色処理。
			SJ112	2	0	0	0	1	木葉痕有。内面黑色処理。
			SJ112	4	$\frac{0}{2}$	0	0	0	木葉痕有。内面黑色処理。
	. '		SJ119	4	4	0	0	6	木葉痕有。内面黑色処理。
			SJ143	1	1	0	0	1	木葉痕有。內面黑色処理。
			SJ304	1	1	0	0	1	小来版有。门面黑色发生。
24	諏訪遺跡	利根郡月夜野町	2 a住	4	6	0	0	0	木葉痕有。内面黒色処理。
34	師遺跡	利根郡月夜野町	SJ09	1	0	0	0	2	<u>不</u> 果狠有。 內 <u>國黑巴処理。 </u> 平底- 木葉痕
				2		0	0		丁瓜- 小未収
36	黒井峯遺跡	北群馬郡子持村	第5号住		1 2			2 -	TV 47#H
37	行幸田畑中B遺跡	渋川市	第57住	1		0	0	5	TK-47期
38	荒砥北三木堂遺跡	前橋市	2区16号住	1	5	0	0	3	5世紀第3四半期
			2区28号住	3	2	0	0	3	5世紀第3四半期
			2区35住	1	0	0	0	24	5世紀第3四半期
- 00	类 加卡医 电映	- 公長士	2区42住	4	1	0	0	2	5世紀第3四半期
_39	荒砥東原遺跡	前橋市	21住	2	1_1_	0	0	6	C. III. 67-50
40	荒砥天之宮遺跡	前橋市	A区 5 号住	2	4	0	00	3	6世紀初
- (1	コニ 1. 产土 11. 油 井		D区73号住	3	1	0	0	3	5世紀末
41	西大室丸山遺跡	前橋市	祭祀跡C-47	1	0	0	0	30~	TK-2080建
42	前二子古墳	前橋市	墳丘~周堀	2	5	. 0	0	2	TK-47~MT-15須恵器蓋
			TI 04-	1	-				5世紀末~6世紀初頭
Í			H-2住居	1	0	0	0	0	5世紀末~6世紀初頭
			H-3住居	1	0	0	0	0	5世紀末~6世紀初頭
	1 NOT 6	AL VII. THE Laborate	H-7住居	1	1	0	0	0	5世紀末~6世紀初頭
43	上淵名裏神谷遺跡	佐波郡境町	3号住	1	8	0	0	2	5世紀後
1			5 号住	2	7.	0	0	_ 0	5世紀後
<u> </u>	7-5 -barbath Others		8号住	1	1	0	0	2	- w t= 46 yk
44	延享割遺跡	太田市	第26号住		11	0	0	22	5 世紀後半
埼玉県		T-Listenb	00 11 44				1 0		Tare 1.466
45	南大通り線内遺跡	本庄市	26号住	1	4	0	0	3	平底- 木葉痕
46	下田遺跡	本庄市	6号住	2	13	0	0	10	鬼高Ⅰ期前半
47	戸森前遺跡	深谷市	第12号住居跡	1	15	0	0	1	後期初頭
48	上敷免遺跡	深谷市	第16号住	1	2	0	0	2	
			第18号住	_1_	0	0	0	3	
			第19号住	1	1	0	0	44	
	Value (From 11 . 1 . Lade 2004	III == 300 24 m m=	第40号住	1	0	0	0	_16	
49	猪俣北古墳群	児玉郡美里町	6 号住	1	0	0	0	2	
-	1. 四7 '典 11七	旧工业外口时	25号住	1	5	0	0	3	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
50	上野遺跡	児玉郡美里町	A地点62号住	1	5	0	0		C III 67 (I)
F-	E410 VP. N4	±41,1,-4-	A地点2号土壙	1	2	0	0	2	6世紀代
51	駒堀遺跡	東松山市	第10号住	11	0	0	0	10	L
茨城県		417 Tel 417 417 Tel 10 T	佐117日 A-						E III. 6736 C III 673.
52	森戸遺跡	那珂郡那珂町	第117号住	1	0	0	0		5世紀後~6世紀初
	一の会日に	4のまんサインマー・ルトロー	第124号住	1	0	0	0	0	内外面赤彩
53	二の宮貝塚	稲敷郡江戸崎町	第4号住	1	1	0	0	3	内外面赤彩
54	隼人山遺跡	牛久市	第34号住	1	0	. 0	0	1	5世紀後半
	シャップ L 油中	井 4 士	第15号住	1	0	0	0	_3	内外面赤彩。5世紀後半
55	ヤツノ上遺跡	牛久市	第23号住		1	0	0	5	内外面赤彩。
			第13号住	1	1	0	0	3	内外面赤彩。6世紀第1四半
			第18号住	1	0	0	0		内外面赤彩。6世紀第1四半
			第21号住	_1_	3	0	0	5	5世紀第4四半期
1			第29号住	1	0	0	0	2	5世紀第4四半期
			第40号住	1	1	0	0	0	内外面赤彩。5世紀第4四半
FC	由力言等 映	# # #	第43号住	3	1	0	0	0	内外面赤彩。6世紀第1四半
_ 56	中久喜遺跡	牛久市	第7号住	4	2	0	0	_0_	内外面赤彩
57	馬場遺跡	牛久市	第15号住	2	3	0	0	7	TK-208~23·内外面赤彩
			第20号住	1	1	0	0	_4	TK-208~23·内外面赤彩
			第21号住	1	0	0	0	1	TK-208~23·内外面赤彩
		·	第37号住	1	0	0	0	5	TK-208~23·内外面赤彩
}			第43号住	3	3	0	0	2	TK-208~23·内外面赤彩
			第48号住	2	_1_	0	0	0	TK-208~23·内外面赤彩
58	前田村遺跡J·K区	筑波郡谷和原村	第505号住	0	0	2	0	0	6世紀末~7世紀初・内外面
L			,						黒色処理

表引用文献

- 1 藤田典夫 1990『砂部遺跡』 (財栃木県文化振興事業団
- 2 山武考古学研究所 1992『免の内台遺跡』 芳賀町教育委員会 植木茂雄 1993『免の内台遺跡』 (財栃木県文化振興事業団
- 3 今平利行 1991『前田遺跡』 宇都宮市教育委員会
- 4 梁木誠 1986『聖山公園遺跡』 I 宇都宮市教育委員会
- 5 今平利行 1994『雷電山遺跡』 宇都宮市教育委員会
- 6 宇都宮大学考古学研究会 1995『峯考古』第9号
- 7 久保哲三ほか 1979『権現山北遺跡』 宇都宮市教育委員会
- 8 篠原浩恵 2000『成願寺遺跡』 (財栃木県文化振興事業団
- 9 藤田典夫 2000『杉村·磯岡·磯岡北』 া財栃木県文化振興事業団
- 10·12 秋元陽光 1988『薄市遺跡·大山遺跡』 上三川町教育委員会
- 11 今平昌子 1999『一本松遺跡・文殊山遺跡』 (財栃木県文化振興事業団
- 12 君島利行 1986「第4章第1節 上三川地域における古墳時代後期前半の土器群」 『大町遺跡』 上三川町教育委員会 詳細は、上三川町教育委員会秋元陽光氏の御教示による。
- 13 秋元陽光 1993『多功遺跡』Ⅱ 上三川町教育委員会
- 13 秋元陽光 1997『多功遺跡』Ⅲ 上三川町教育委員会
- 14 吉岡秀範ほか 1995『殿山遺跡』 I 日本窯業史研究所
- 16 吉岡秀範 1989「東林北遺跡」『宮の森集落遺跡群』 日本窯業史研究所
- 17 藤田典夫 1987『稲荷塚・大野原』 栃木県教育委員会
- 18 内山敏行 1998『新郭古墳群・新郭遺跡・下り遺跡』 ㈱栃木県文化振興事業団
- 19 安藤美保 2001 『谷向・国谷馬場・中の内・惣宮・鍋小路』 (財とちぎ生涯学習文化財団
- 20 内山敏行 1997 『八幡根遺跡』 (財栃木県文化振興事業団
- 21 上原康子 1998『清六Ⅲ遺跡』Ⅱ ㈱栃木県文化振興事業団
- 22 竹澤 謙 1978『上敷遺跡』 栃木県教育委員会
- 23 天野順陽ほか 1999『名生館遺跡・下草古城本丸跡』宮城県教育委員会
- 23 鈴木勝彦 1990『名生館官衛遺跡』 X 古川市教育委員会
- 24 村田晃一ほか 1998『山王遺跡町地区の調査』 宮城県教育委員会
- 25 後藤秀一 1994『藤田新田遺跡』宮城県教育委員会 日本道路公団
- 26 五十嵐康洋 1998『南小泉遺跡』第26次調査 仙台市教育委員会
- 27 佐藤 洋 1997『養種園遺跡』仙台市教育委員会
- 28 斉藤吉弘 1991『新峯崎遺跡』宮城県村田町教育委員会
- 29 高橋誠明 1997『清水内遺跡』 財郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団
- 30 柳沼賢治 1987「永作遺跡」『郡山東部7』 福島県郡山市教育委員会
- 31 山内幹夫ほか 1994『母畑地区遺跡-正直A遺跡』上巻 (財福島県文化センター
- 32 大越道正 1983「薬師堂遺跡」『母畑地区遺跡』13 ㈱福島県文化センター
- 33 大江正行 1988『後田遺跡Ⅱ』 (財群馬県埋蔵文化財調査事業団 群馬県教育委員会)
- 34 岩崎秦一 1984『城平遺跡·諏訪遺跡』 (財群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 35 大江正行 1989『師遺跡·鎌倉遺跡』 (財群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 36 洞口正史 1985『黒井峯遺跡 I』 群馬県北群馬群子持村教育委員
- 37 小林良光 1995『行幸田畑中B遺跡』 群馬県渋川市教育委員会
- 38 石坂茂他 1991 『荒砥北三木堂遺跡』 I (財群馬県埋蔵文化財調査事業団 群馬県教育委員会
- 39 飯田陽一 1984『荒砥東原遺跡』(財群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 40 石坂 茂 1988『荒砥天之宮遺跡』 া 財群馬県埋蔵文化財調査事業団

- 41 荒木勇次 1997 『西大室丸山遺跡』群馬県教育委員会
- 42 前原豊ほか 1992『前二子古墳』 前橋市教育委員会
- 43 大木紳一郎 1991『上淵名裏神谷遺跡・三室間の谷遺跡』 財群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 44 天笠洋一 1996『延亨割遺跡』太田市教育委員会
- 45 増田一裕 1989『南大通り線内遺跡』本庄市教育委員会
- 46 横川好富 1979『下田遺跡·諏訪遺跡』埼玉県教育委員会
- 47 中村倉司 1999『岡部条里/戸森前』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 48 龍瀬芳之 1993『上敷免遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 49 中沢良一ほか 2000 『上野遺跡 (A・B地点)』埼玉県児玉郡美里町教育委員会
- 50 丸山陽一 1998『猪俣北古墳群ー引地遺跡・滝の沢遺跡』埼玉県児玉郡美里町教育委員会
- 51 谷井 彪 1974『駒堀遺跡』埼玉県教育委員会
- 52 浅井哲也 1900 『北郷 C 遺跡·森戸遺跡』 (財茨城県教育財団
- 53 鈴木美治 1991『二の宮貝塚・大日山古墳群・思川遺跡 (上巻)』 (財茨城県教育財団
- 54 深谷憲二 1996『中下根遺跡・西の原遺跡・集人山遺跡』 ㈱茨城県教育財団
- 55 小高五十二 1993『ヤツノ上遺跡』(財茨城県教育財団
- 56 荒井保雄 1993『中久喜遺跡』 (財茨城県教育財団
- 58 小林孝 1999『前田村遺跡 I·K区(上巻)』(財茨城県教育財団

挿図出典

- 第1図 安藤美保 2001『谷向・国谷馬場・中の内・惣宮・鍋小路』(財とちぎ生涯学習文化財団 吉岡秀範ほか 1995『殿山遺跡』 I 日本窯業史研究所 梁木 誠 1986『聖山公園遺跡』 I 宇都宮市教育委員会 宇都宮大学考古学研究会 1995『峯考古』 第9号 久保哲三ほか 1979『権現山北遺跡』 宇都宮市教育委員会 藤田典夫 1987『稲荷塚・大野原』 栃木県教育委員会 に加筆転載。
- 第2図 鈴木勝彦 1990『名生館官衛遺跡』X 古川市教育委員会 山内幹夫ほか 1994『母畑地区遺跡ー正直A遺跡』上巻 ㈱福島県文化センター に一部加筆。
- 第3図 石坂茂他 1991『荒砥北三木堂遺跡』 I (脚群馬県埋蔵文化財調査事業団・群馬県教育委員会石坂 茂 1988『荒砥天之宮遺跡』(財群馬県埋蔵文化財調査事業団岩崎秦一 1984『城平遺跡・諏訪遺跡』 (脚群馬県埋蔵文化財調査事業団丸山陽一 1998『猪俣北古墳群ー引地遺跡・滝の沢遺跡』埼玉県児玉郡美里町教育委員会小高五十二 1993『ヤツノ上遺跡』(財茨城県教育財団に一部加筆。
- 第4図 筆者作図